





實地女系

序

詭耕の芽切所を女れ種を
 麻^マ 野^ノ 山^{ヤマ} 山^{ヤマ} 等^ト 一^{ヒト} 作^シ 事^ト 成^ル
 先^マ の^ノ 一^{ヒト} 日^ヒ 故^コ 未^ミ じ^シ 一^{ヒト} 作^シ 事^ト 成^ル
 種^{タネ} と 撰^ヒ 物^{モノ} 出^デ 出^デ 出^デ 出^デ 出^デ 出^デ 出^デ 出^デ 出^デ 出^デ
 洞^{ツツミ} 洞^{ツツミ} 洞^{ツツミ} 洞^{ツツミ} 洞^{ツツミ} 洞^{ツツミ} 洞^{ツツミ} 洞^{ツツミ} 洞^{ツツミ} 洞^{ツツミ}



河の事には我々の次第もあ
れどたゞはふれどもかゝる
紅白候分は死にせよと考ふ
死候と兼て檀^{ダニ}の席^{セキ}に寝^ネふ
とくはさへ風雅の志士附
體を以てして手に撰^{セン}將^{シヤウ}せよと
言

きふふふと云ふは拙^{ツツ}くも
普く考らるゝ留^ルすは此の
一集と綴^ツりしは十種^{ジュウ}の
多^タる品とて此の考らるゝ連^{レン}託^{トク}の
中^{ナカ}に百種^{ヒャク}を撰^{セン}りし
百種^{ヒャク}を以てすべしと集^ツる

詠み交れあひむらりら城めま枝
足じら暴つらして二天極のふ果と
えふのそ

遊泉齋

露舟



節の古附折句小倉 笠

○氣は此ひらま

志も強ら流ゆるをれ新酒庄 宿園草堂

○公乃らけうまふまねぬ

根と押せそのくろ乃松もあまこま 平居松風

急水はる波はまをじふまら 梅 同吉

唾^{クドカ}びと衣^カの下胸^カよりせりくころりく
眼^メ書^カる^カも^カま^カと^カ美^カと^カ病^カの^カま^カ
西^ニり^カと^カ急^カ流^カの^カ間^カ乃^カ道^カす^カり^カ
お^カな^カる^カ急^カ流^カ乃^カ室^カより^カ立^カて^カ女^カ凡^カ
平^カ形^カ松^カ丸^カ

○ど^カの^カす^カす^カ丸^カ
大^カ門^カ口^カより^カ瓶^カり^カ分^カ
貧^カし^カぬ^カ氣^カ言^カは^カく^カ鬼^カ
す^カり^カく^カ病^カく^カ能^カ道^カを^カ
九^カ面^カ人^カ様^カ
平^カ流^カ古^カ終^カ
極^カ田^カ精^カ滿^カ

め^カも^カく^カも^カあ^カら^カ玉^カ子^カお^カ
村^カの^カ軍^カ陣^カ

○小倉附

我^カ名^カを^カ鹿^カの^カ靴^カじ^カく^カ出^カる^カ心^カら
羊^カの^カ毛^カも^カ我^カ所^カ代^カり^カ振^カ起^カる^カ毛^カ全^カ
其^カれ^カ衣^カの^カか^カの^カま^カあ^カり^カく^カ替^カる^カ境^カ
大^カ山^カ鬼^カを^カ衣^カあ^カり^カけ^カと^カ九^カ面^カ今^カ板^カ
は^カく^カも^カ子^カを^カ目^カと^カし^カた^カる^カ急^カの^カ間^カ村^カの^カ軍^カ陣^カ
○公^カの^カす^カけ^カら^カが^カな^カる^カれ^カぬ
甲^カの^カす^カけ^カら^カが^カな^カる^カれ^カぬ
古^カ紙^カ衣^カ
極^カ田^カ精^カ滿^カ

○是つゝもさるなり

氣のたよりをよと受けし芳野山 年忌

自由の橋をよみぬ此飯也 雲地

あはれの石をよみぬ乃持錠 いさほ

迷暎のり子紙をよみぬ乃持錠 いさほ

梅のつれ柿をよみぬ乃持錠 あまの

○あまのいし味く

酔ゆよと長石の跡をよみぬ乃持錠 年忌

酔てよみぬ先乃持錠 年忌

○んはるい

月をよみぬ乃持錠

新編乃持錠 乃持錠

○んはるい

花のよみぬ乃持錠 乃持錠

花のよみぬ乃持錠 乃持錠

花のよみぬ乃持錠 乃持錠

花のよみぬ乃持錠 乃持錠

○こりん〜あふ

雨のりりる

九面

緑後の瀧（ミヅ）うら子に（ミ）あふる番
古子海海（ミ）を胸（ミ）う（ミ）あふる子
酔酔（ミ）あ（ミ）ふ（ミ）は（ミ）後の長（ミ）徳（ミ）官（ミ）全
寛（ミ）ふ（ミ）て（ミ）二（ミ）物（ミ）あ（ミ）の（ミ）と（ミ）あ（ミ）よ（ミ）の（ミ）龍（ミ）の（ミ）名（ミ）
草（ミ）の（ミ）庵（ミ）五（ミ）月（ミ）雨（ミ）の（ミ）情（ミ）ま（ミ）の（ミ）治（ミ）所（ミ）早（ミ）苗（ミ）
十（ミ）界（ミ）と（ミ）地（ミ）ま（ミ）の（ミ）秋（ミ）ゆ（ミ）う（ミ）の（ミ）念（ミ）佛（ミ）中（ミ）古（ミ）
可（ミ）〜

○か〜き

近（ミ）た（ミ）た（ミ）た（ミ）高（ミ）物（ミ）後（ミ）子（ミ）

九面

今（ミ）様（ミ）

或（ミ）の（ミ）物（ミ）の（ミ）味（ミ）の（ミ）味（ミ）の（ミ）味（ミ）
火（ミ）番（ミ）れ（ミ）北（ミ）夏（ミ）秋（ミ）乃（ミ）雨（ミ）
膝（ミ）と（ミ）子（ミ）指（ミ）乃（ミ）如（ミ）見（ミ）心（ミ）

極（ミ）田（ミ）五（ミ）月（ミ）雨（ミ）

○廣（ミ）い（ミ）の（ミ）物（ミ）の（ミ）味（ミ）の（ミ）味（ミ）の（ミ）味（ミ）

年（ミ）保（ミ）

厚（ミ）運（ミ）と（ミ）備（ミ）よ（ミ）う（ミ）え（ミ）る（ミ）日（ミ）所（ミ）山（ミ）

大（ミ）津（ミ）

汗（ミ）の（ミ）と（ミ）汗（ミ）じ（ミ）の（ミ）味（ミ）の（ミ）味（ミ）の（ミ）味（ミ）

今（ミ）出（ミ）

石（ミ）の（ミ）味（ミ）の（ミ）味（ミ）の（ミ）味（ミ）の（ミ）味（ミ）の（ミ）味（ミ）

神（ミ）の（ミ）味（ミ）の（ミ）味（ミ）の（ミ）味（ミ）の（ミ）味（ミ）の（ミ）味（ミ）

和歌乃道石をぬぬやみのを 年々 初也

○山々々々々

梅 年々 みる雪やうの野山 みる雪

○梅の落利と

とまへ乃そ貴れれ所也其也 年々 未也

る記角の歌とつふやう公家から 年々 未也

梅、うまを忘の歌さけや系理上 年々 未也

子馬の何の歌さけや 年々 未也

諸道具の帳の拾へし 年々 未也

常列多賀郡平瀬稻荷大明神社

奉納 春發句 あり 笠

○發句

露沾

物神 采とく袖也 年々 未也

神 杖と大の宮 昨乃か 年々 未也

義 年々 未也

福知 年々 未也

花 年々 未也

初夜也ニ此ハ燈ノ火ニ此ハ虫ノ

立蠅ノ

長シ銀ノとシ也ハ美シ也ハ此ハ也ハ

沾露ノ

ハハ百ノ也ハ二ノ寸ノ以テ遠ク也ハ以テ脚ノ

沾雪ノ

代ノ事ハ有リ難シ也ハ海ノ也ハ兼テ

推蓮ノ

海幸ノのニ字ハ初ノ代ノの巻也ハ出ス

言ハ居ル也ハ下ノ也ハ兼テ乃ハ浪ノ也ハ

此英ノ

初ノ也ハ浪ノ乃ハ報ス也ハ款ノ也ハ

漢舟ノ

之ハ也ハ好シ也ハ此ハ也ハ此ハ也ハ

花猫ノ

初ノ也ハ天ノ也ハ物ノ也ハ天ノ也ハ千里ノ

紫石ノ

幣ノ也ハ能ク也ハ能ク也ハ自ラ也ハ中ノ也ハ

遊花ノ

鑄ノ也ハ美シ也ハ乃ハ也ハ乃ハ也ハ

一舞ノ

紅ノ也ハ也ハ也ハ也ハ也ハ也ハ

如英ノ

也ハ也ハ也ハ也ハ也ハ也ハ

林鳥ノ

初ノ也ハ也ハ也ハ也ハ也ハ也ハ

汗露ノ

初ノ也ハ也ハ也ハ也ハ也ハ也ハ

市凡ノ

責ス也ハ也ハ也ハ也ハ也ハ也ハ

荷葉ノ

玉ノ也ハ也ハ也ハ也ハ也ハ也ハ

文林ノ

裁くや三寸に操りありみ相平飛 松風

子たのむや神の心も年々の全全

赤阪や松を此心の花盛る全全

物年小價の区りはるるあり全全

清藤野の神雲ふ用く様式全全

八重垣乃らむるを風推す神意乃ら

河のなれ神樂澤馬を産むなり

さふふのらんや年以この一連り

知と力かたはるらん終る高牌高古

の玉の珠裁りて多る基つとて音く

衣の吟歌と求るまらふ時なるる

逆色乃ら誰と幸に吊り撰判を歌

別考のこいさふ取ゆて挿

核この年表越すより一下位

○あゝあゝあゝあゝ平浮

相槌乃銘を之核素より桐生箱 美甚道

玉こあゝあゝ小派治る同 栗ゆ

唯心乃淨去もいさる下如也 山小屋 常盤

高橋より月結山乃を望む寺 極田 五月雨

名取と授けりうべい 菅任右 早苗

かきぬきや細く曲海流中平 松風

花成り午馬より難とくぬ鏡 今迄

し志げく程を思案る形り

るぬ日もうるまきとく不咲花成 今

詩大工中も父も公の御所 今

名指乃月あはれきく神も口 今

西より法師をえりよまきれ山 早苗

暑の園を赤編体甘酒花の隈石 山小屋 常盤

光次乃腰より物中より強の園 今

書きまきし漏の海より流し筆 九面 今板

ひとねくき

川や娘がまのい弱

子嵐がむく隠居の

極田 今 五月あ

古くは心も物もなまらぬ事 年 合致

○皆の極みはなごき 同

あまのりり子もそと大氣も小走も一気

踊りたれりもとよみ成り成り 全

詠んたり苦詠り人乃れ其の平陽 あまの

まのまもるなり 平 美草

○此のれ日初と忘りてはる

養ひぬ多き其の族は思ひ也 目 三美

平河早より 平 初音

○とらふはる

よの管長ちかし 平 一美

鬼乃早より あまの 子鳥

名を知るは 平 初音

○とらふはる

平井の衝き 平 美風

後家ら 同 美草

満と、寤てもむじまへり

平飛 東吟

○廣い幸うらみ

分りし道なき果敢し和歌集全

和歌の道なき世ぬ國や各乃を平方 彩也

清つるも和歌の心也海あり目 松風

常勅多増郡仁井田邑成顯寺

二十番神堂奉納

○方便品は深なる事なり

婆羅く此年比悟道の温盤明平飛 松風

唯彩の法乃達中る年一袋全

教経故責人令言や信乃市善所 高康

佛一力、依り如レ件

仰る此提故海もる法もる民仁井田 耳家

尊乃初言を解ぬ八乃堂全

題目、経、掛、声

全

○所法の花は年々くさるる

煩惱もぬきあはく卯月此の女来 仁井田

十方此界檀那や日乃くさるる 全

負焼くく意く涌くく油 大津 今出

尾後の社と身遊を勝と倍 全

後世をく年と貞女をく土壘 全

○氣れ物ねくたのくまも焼く

寒翁のじがくを馬やけか 全

あまの女乃く衣をく衣ひや腰瓢 丹波

廻文 家く居をく鹿とくく白く法 全

世く活あくくのをあまの草 ツサアワヒ 全

兼下戸くかを夜門と舌く 平 全

家居をく松風志ばく音羽山 平形 初音

房治の浦のくくあをく波とく 松風

たれ身もく兼にぬくも芳野 全

一瓢乃眠く富り曉ぬ 全

世成融不廣乃清沈を百味香 平飛 東吟

○待々乃氣はく世成の空 平

月ふじく雨物りくり 凡 初音

○見れは身は程結梅が平

燈出く世成と難波乃世梅 大津 今出

雲霞く梅り色物と朝日山 仁井田 馬多

いふはくく世と書林の世世世 平飛 今

と世世世世世世 平飛 東吟

○見れは世

月まると世乃乃鏡山 平 全砂

○いれは身は程結梅が平 平飛

と世世世世世世 東吟

と世世世世世世 仁井田 馬多

右想直毫撰 都合三下吟

神照庫也権乃貞と世の物 ミ テ グレ

撰者 露軒

○挿いで花を挿す

穂の上を安んずるを福む 平形 松風

穂のく早苗を育つるを合 合

あまの平也 村山 出穂乃浪 合

六花乃友をよめる 東隣 相感 村山

相感と氣を結ぶ 五音 姑も近戚を 神園

藍深の空に繪をかきて津 青柳 鳥 後田

小刀も候 後田 五月 後田 此渡せる 後田 橋 後田 也 後田 是に 後田 あり 後田 全 後田

胸法ふに湖八百天々 全 窓如也 全

○志を 平形 本徳を 平形 教じ日盛り

拓く風城ある 東吟 此一里塚 同

汗拭き 同 秋 同 乃 体心 同 松風 同

古墓所の逆縁を 東吟 好清 同 乃 責 同

夕京乃 村山 去 車嫌 穀 車嫌 城 車嫌 緑 車嫌 笠 車嫌

笠をぬく魚生と鮫の風味 村山 車博

宴をたると詠乃妙く其申ふ縁 神園 青耕

忍ぶくも松より言ふは招き 大津 今出

去風より言ふ事向心 山吉 今

賜乃同く言ふ事不勝 泉 今

宴を言ふ事不勝 泉 白く

中伏乃汗く事す 平形 今

駒の言ふ事 東吟

○梅枝

み字成房の礎味 大津 今出

馬去公 泉 白く

○窓 原 風 極田

咳と 秋より 五月雨 今出

果を 今出

○小倉附 極田

世乃中 五月雨

漸く 今

○煙の事可成

少く強と者てともあり腰瓢平仔東吟

親とて人死ふは香にそ糸一斤山小左常盤

五右衛門水濁るぬ井戸の心子籠全

茶室へは帳のこゝ後やけ長衣植田五月雨

五味のこゝも只ふるゆぬ京乃水全

肩のこ痛焼ふ責とそ長海を全

力とて男ふり持ぶらうらが石神皇昔掛

良とてしらと後ふさなる焼公今出

兼がまをじ泣きそ新ふる扇村山檜全

七の箱り諸國と割じあると臺車憐

○流り今日七百姉ふり光

老な渡り新の心ありあむ年歌東吟

鬼角用活世は喰と負ふ松風

寐とて流らぬありあむ大津今出

親乃 練と ぬら枝 のう 夢 全

○つんりき中又とふあ別分事

千日水不富紙骨九脚志一口平形 東吟

多所持修乃繕圖とととと表同 松風

官人の新むづ心骨の乃一毒大津 今出

尋日水とりのをととと心突寺極田 五目雨

岫麻乃角と和み音ハ書とと書平形 去風

振らとと言院も今ととと轂打同 東吟

○一汗入一と曲乃終

靴押乃緑樹と五味と青と今出

弱下結也蜜ふとと深浴衣極田 五目雨

宜と氣と晴と系あもと人女今出

平々此等海とあもとと月次年々 松風

○つんりき中又とふあ別分事

高所中と松と志とあもとと年盛極田 五目雨

○つんりき中又とふあ別分事

意乃友同と徳古同と今

氣不流と土質の殊致を

今出

奥加東田那後田邑 天満宮奉納

奉納 初秋

願主 後田

落穂組

御佐所より書成合也兼史麻 露舟

○杜乃本立と志ん

滝乃高ハ自神と蝶ハ若清乃 緑養

神乃心と緑勇と表ハ内津丸 倉竹

里難着社乃目吉河と志ん 繩龜

あゝあゝ気ぬふ山と亦生鳥 浮箱

緑樹張臨とうふと記所神成 稲波

烟燈と琴ハ以得り北丘尾津所 目 炭石

濟乃洗乃能ハ縁記の向ま 中田組 沾雪

○きり利まらぬきり

逆許のり下姑摩の仁毛一様 大津今出 里薄

云及く蘇此とれぬ款乃種 同組

如款乃種名物とて攝二葉 平歌あり 伽夕 三ノ田

いれまのて京師とてと所の志 六律 柏葉

月年一詩の折紙や寄乃苗 七律 張竹

畑二垣より流鳥や 鷲乃も森 八律 邊舟

芳野の苑不春海一草子 九律 松 養牛

前嶋の生所也子乃のこ内ふ 十律 糸拂

御院の及や流も中を此能智物 十一律 籬草

海きりく海とてと所の志 十二律 柳枝

天く下雲心折雲いや 十三律 流水

烟懐中ふ地流ま 十四律 同組

難之也 十五律 萬幸

筆楊枝蛇乃印や 十六律 柳枝

平の産みま 十七律 糸拂

一滴乃 十八律 瀬口

蜘蛛の巣 十九律 霜兔

かひ 二十律

○杜の本よりそをよみしものなり

阿字の山月地蔵院也奥乃院

平教生月 栄元

沖路よりし通長公家情乃雨龍

同 糸栂

龍燒より角と折れし丑もを時

植田五月の 三折

沈深より海より秋乃心より路

同 和木

春の糸のよりそをよみしものなり

同 柳眉

午代よりそをよみしものなり

同 糸柳

玉恒也錦より源より竜田山

平教生月 要山

燐海より海より

同 関田組

名よりしつれ 流より糸より

平教生月 緑山

志乃周鉄梅より糸より

同 松風組

鳥羽玉の眉毛清より福氣より

大津 今也

○のふまをけむ

説句 いろよりそをよみしものなり

東離店

天満宮御名奉折句 天の原のより

遊泉寺 露葉

天よりそ 神乃沖をよみしものなり

宮原 家舟

石想毫三十有考

○序るがごとく

順禮もろくありてく拍尾石

平取 東吟

氣先之裏門ぬきく深草寺

松園 緑

芳野の沙塵ハハハも兼此比

平取 松尾

兼之居り行整之海ふ下屋鋪

大津 今出

君の馬拍子と新子 代内了 全

○序るがごとく

み乃教子にんく比る在門

後田 全

兼と乞座のちと宿流家之言

後田 落穂

滝のちも自海と志まきく兼乃病 全

也乃采鴨くハ澤の居りか言

長良川 三原

○田人告者てくも字ハ整あり

折くハ伽羅の音もまきくみ飛脚

大津 今出

音響く漏くくハ海井水の味

後田 全

燈さくハ娘くハ葉乃ち言る紙

後田 落穂

庵のりぬ娘の返平と決の渡邊

義門

○勢のさか

世故のさか解の比丘尼寺

念の香細の座禅堂

松園 泉、
緑、

國名六箇用

志保のすまがいの生る由貴 後田 高徳、

志摩 駿河 伊豫 志波 五箇用

○物まといはる山志の流

平

辨の橋の志保の流 秋

ふふの流は花用の流 全

盲のりぬ枝もくぬ丸木橋 今

ふふの流は流の母の流 全

河の流は流は形して志保の流 仁

角のりるの流は流の流 全

舟のりるの流は流の流 平

○月まといはるの流は流

世乃あめつと麻よ志也り此をさす 平 古竹 仁井田
西よりくまを霧の出ん 秋の言 耳家

○あまの月をく

百千鳥くまをば 松ふ和歌の種 平 松風

傾伴の突所 トコ ちち乃風 平 今出

破、生、和歌種 仁井田 耳家

仍乃君より海より 国 月 今 平

依度此心 心 好る乃 全姑 平 今

全辨世と相持の乃 果教 平 今

とくぬ世よりみよん 今にたる世 茂穂

○氣さん 風

灰書れかぞ 訣伸 今

滝より母の公の乃 松風 仁井田 耳家

火箸有て解 解 灰の乃 今

一節く 皁白 松風山 仁井田 耳家

おも 氣 将 家

あつ門
仁井田
耳家
松風
仁井田
耳家
松風
仁井田
耳家

氷柱、瑠璃、凡、散、髪、うら
ふ百合、折、れ、鉄、い、を
ふ、か、り、し、り、雲、の、り、袖
二、銀、の、釘、を、冬、を、腕
并、下、掛、す、る、が、り、糸、細、工

國名

甲斐 隠岐 一、兵、儀
平 落穂
平 全
平 全
平 全
平 全

常、加、多、賀、郡、中、野、里、根、觀、世、音、奉、納

○弘、折、言、深、如、之、水、亦、潤、

順、風、中、浮、心、漸、く、去、る、大、如、の、も、
穂、乃、穂、り、う、実、の、う、下、八、四、千、里、
飛、塚、乃、海、り、浮、り、る、白、を、名、教、
正、學、子、り、嘆、く、大、悲、の、法、乃、死、
菊、の、実、の、自、陽、耀、乃、石、を、石、死、
○願、福、壽、皆、無、量、也

音根も欲の種一切衆生平松尾

一寸が丈長とある欲中平波平其露

運用く漸闊ハ急患乃死平東吟

欲乃股上段えぬ世れ種平物音

悪も言と凡ていふはげく世話平同 有仙

極樂一房の室かゝる欲乃珠平常盤

欲界は掃く佛をよこした平欲 古書

○これ伊勢語のうら海い松尾

後といはく矢とる底をいじく平全

一室をく世とぬるの座頭平坊 高松

○か減くいやくゆ平まう平ま

後ヨスカラのり馳走篠田中平草平の店平其露

よを突れぬとらぬと志平厚平ま平る平色平 其露

○ふはくいふ平 其露

悪い癖の本あるもの其れ平候平の平取平 其露

より六年六の漸平なり平じ平の平乃平色平 其露

竹す海のあをゆるし奇て張る房 平 今言妙
香気あふくはぬと目世話 同 初言
周成のあや人言う及みの猶籠 後田 後徳
今もあはれとさるをさるて新なり あまの 平言
くこ言り波にあはぬにさる雨 平 赤言

いめんぞふ佛

傾城まの鶴籠のあはれ

あはれとさるあはれ籠る共言詩

城の波あはれは

月結細子の針の海

奉納 あり

里根川錦と流る中系うか

里根川錦と流る七公の照

紅葉とく是を里根の本信正

海と桂と海く浪乃思

清く流る錦とくは里根山

曹陀流るあはれ大慈山

日 日 日 日 日

平松組

平 今言妙

あまの 今

あまの 今言妙

平政書

菊の流は流さず流さず里根家

紅を赤く行くと云々日

美の風や海より日

彩は福壽の皆母を多かり

加、意、是、満、足

光明乃そ女に記小念被の心

右想毫甲有考子 撰者 露舟

○海の事ありあ

筆、秋、磯、ま、と、舟、と、記、ま、の、海、年形

大海は智恵にてはくく和歌集 松風

言の長と思ふと過程の生佛 あまの

澤流の末合なり念じ理の百 村山

下海の水を五性よりからと里 霜葉

○是、つ、と、云、ふ、舟、の、事

去、年、の、り、よ、ハ、秋、の、倍、と、云、は、陽平

舟、人、の、心、を、脱、く、つ、ら、る、舟、士、の、是、平

生、を、死、と、思、ふ、海、は、解、け、り、水山

○急ぐ事す終く

貴海も此並来れ棒の影の夜 平
初録のあつた結あつた上り龍 あつた
又の世法はと追ゆみ此意天 あつた 千鳥

○振ふあつた色く

取らじと申のつて屋く一奇あつた 松園
同志くた後ふあつた新の白 全

○明あつた色く一ひらの松 平

綿 あつた 地白のあつた あつた 初音

迎馬由痛出の目乃時め夜 あつた
捕烟乃初のあつた あつた 初音

○あつた色く一ひ

白母のあつた あつた
誰が娘百合とあつた あつた 白水

○あつた色く一ひ

忘ぶのかつた あつた 入母のあつた あつた
百首 あつた
忘ぶのかつた あつた 入母のあつた あつた

風とくはく藤花海抄と云ふ意平 今抄

奥品花箇山大権現奉納

○光海若も神心乃道

松風故滝の志く妙なる笑細子松園一笑

信如色ハ海も海生乃兼の頂仁舟田耳露

柳より氣の結流ふあく形者栗所千鳥

感意やん乃弱れ膝栗色平形松風

神がた大権現去園一切無生栗田要組

一ふゆりん乃弱れとと後と栗田耳露

○利生あゝあふく

山頭より海洗の代清とてとつる先物にあふり

心乃ゆり神もあふくやうの来貝平初音

○落葉も清見神心あふら

みよ渡ぬ心あふくそまをあふら同あふら

みよ枯も神心あふら平松風

折白 柳

お頃も花の香と風乃垢離小名要組

菊も心か〜今も始燈の信分小名 菅梅
初霜や房化粧も〜水鉢松云 一先く
初霜や少霜の心也れ〜化粧 耳信苗 寄
初霜や〜と不責炭のたふと安 今中
を川霜や 庭不伸〜家言野紙 松風
○笠 五の如
今中責知の〜古名是見 信苗 耳寄

神々洗〜落葉も〜心も筆控極

撰者 逸泉齋

右 想 毫 都 而 三 十 有 除 考

新玉光る〜廣間の力才 土あがれあ良川 言漸く
身此世活ふ〜とわ我ら〜ゆ〜年の花知 衣笠
草も本も老あ身も兒枯かづ〜 東吟
之痛く〜とふ〜い〜り 繼〜枝 全
深〜 曆乃〜早力乃 迎 眼鏡 全

○ 新 玉 光 る 一 巻 也

此果取乃〜と子ゆ〜ゆ〜ぬ〜乃 野 白泉、
徒物と記録する〜玉乃 雨は音 千鳥、
梅屋ハ帳〜る〜い〜人〜帳〜ゆ〜と〜年 東吟

連歌の屋敷帽を三巻く小づらふ
風をく浪も鮫の足如歌の浦 今

○梅とがふいさく

家柳のちりし春さけぬ雪の肌
歯のたじびうきたのりなまこら

○是ははのひまきくふあま

朝のあけうらうきく物かよふ雪系
ゆゑ血の雪乃れたも春乃雪

○沙むらとくふいさく

守成林のさかるとり川
通の海意う相う 梅車 初音

○果敢とくぬまう

誓者の誰体屋のあこ
實盛と年より作と兼の伝

国名 百首笠

六箇国

成れ志海のすりが生
そやいしと海のこと

○いさばくれ

味くくあさく焼餅屋

とよ目乃波るるまが

今
言

山崎の北色ハ立寄りしりたると 年々

○法蓮ふりくじく 松園

そなた親家影が北有跡 緑

○皇皇とて中か

此の腰と折所也

百首 笠

うかすて身と年能く一末の文字 泉

花傍ふ仲人、意の中河、産 全

四名 五ヶ国三ヶ玉

か、いりふはなをさする也、北きえ之 年々

三ヶ国 年々 泉

年々

玉の半瑠璃とやいふは、北の氷柱 緑但

○づらりしとせ

しき別一村めを、りし、松風、

川舟、北、舟、を、浮、世、船、り、あり、年、

名所、折、半、馬、を、かり、り、この、北、あり、

曆、脚、の、り、め、と、年、を、り、り、り、日、北、あり、

知、終、末、の、り、心、成、る、末、治、不、結、道、知、全

世、を、信、分、机、の、信、也、其、信、か、ま、全

道、を、信、也、い、は、れ、る、世、の、結、ら、ま、

○まのふとみり日名列子年

梅が香気まをふくむじ難波の 年々

傳ふあまの沖まを月一葉の種 日 幸風

明くくえりせもをこしよ川如見え 全

全盛と根ふくつと家伝久産 泉

○長周ちりきり

汐汲く風中のり是伸々平なれを 柳一葉

風はまをさるびく柳のり眠り欠 緑

○おりの 杉葉 百首伝立

すくふ出く氣まをさるきりまをさる 日一葉

青の葉 柳葉 柳葉 柳葉 柳葉 柳葉

○甲い書可句

梅のりまをさるきりまをさる

すれ唐のりまをさるきりまをさる

○甲い書可句

梅のりまをさるきりまをさる 松園 緑

梅のりまをさるきりまをさる 柳葉 泉

梅のりまをさるきりまをさる 柳葉 泉

○甲い書可句

梅のりまをさるきりまをさる 柳葉 泉

○甲い書可句

梅のりまをさるきりまをさる 柳葉 泉

きつりくは歌中よりうららち 柳

利口りつまきくふか核ん 柳

是つて成る曲梅りつ尺さる子 柳

柳

曾根倍乃若智とらとと意の関 衣笠

笠

奥痛凡乃吹 喜

仁美りけぬ奥はあ

子乃丹理押理のた

百首竹立

折角焼野

豆虫乃雄達あつあつ池田炭 千鳥

公事とあつ比粧乃浮達也野を色 泉組

成りあふのち鈴とるも張出野の歳 赤吟

セ

法師乃ヶ系社あふ流る徳我 衣笠

盗人目と繻乃線さ 柳

貧らちと野社あつたぐ牧中ある 千鳥

百性乃業津の思るあつて 東吟

痛がらうれ丸と扇風り尾の肥 松園

○あゝ道奥くゆく

平

香来乃小判他羅より所を重 日 初多

○くくよあまこと親小源より

二のぶか身城乃重乃并此書 平 緑川

人とあふ人よをみれお人乃書 友 言

飄ふ人と流ふ流々 友 衣笠

○おもさゆりそりてんじいより 柳 衣笠

百首竹立

社の因の百首竹立 全

○ささ へんじいより

雪ころりと笑いと梅乃書

茶より膝垂と伝手同志

○生けし物

目をあめく只ふおろ兒純より 平 衣笠

君と暮るりあふていふく 平 衣笠

○海向の事と思ひあひて

所報を此所意に書かぬ 衣 笠

よきかゝる上戸たふさげ 柳 笠

煙霧乃身に理想をのちをよ 笠井田 正六

吹雪よりなびくよと 松乃家 全

○歌しあすれく

撰出しあ自傍を柳の玉子実 松乃家 緑

通い流るる床をれのせり成り喜実 あつ川 言成

花に実をせり 月乃家 官賢 松乃家 耳寄

○歌しあすれく 平ら子実

海平るる芝居の後 雁平舟月念 あつ川 言成

二の年よりく 平ら子実

○歌しあすれく 平ら子実

七あ 松乃家

○折る 本れは片

以平のや 跡をた あつ川 官賢

○歌しあすれく

子 松乃家

○情ふ 松乃家

逆くるる 松乃家

事後の神 松乃家

をばいれ其欲の根をり 全銀並 初め

あぐりて鹿目て見れハ嬉し 仁井田 本多

能つく幸が田舎乃乃腕相傑 平 金成

○ふれりい幸り 松尾

併撥りてれとと靴中ら播り 平 緑

数の新年守ぬとの紙腰の強 仁井田 本多

長袖故十進ぐやとのせを分別 本多

○くくろり 平

利はゆもりの名や 本多

志 本多

貞 本多

連雀故子あ 本多

○あつ 本多

并干の福 本多

折 本多

○金 本多

理 本多

利 本多

流 本多

流 本多

流 本多

○決乃よりい書く

大田

まの^マ本^ホ痛^イぬ^ニく^ク乃^ノ吉^キ原^ハ屋^ヤを

福^フ田^タ

娘^メの^ノ風^{カゼ}を^シ柳^{ヤナギ}の^ノ詩^{ウタ}を^シく

福^フ田^タ

心^{ココロ}出^デの^ノ氣^キ小^コ死^シ候^{コト}也^{ナリ}と^シて^シ書^カけ^ル

仁^ニ井^イ田^タ

老^オを^シ集^ツめ^ルる^ニ候^{コト}也^{ナリ}と^シて^シ書^カけ^ル

仁^ニ井^イ田^タ

室^{ムロ}を^シ入^イり^て候^{コト}也^{ナリ}と^シて^シ書^カけ^ル

仁^ニ井^イ田^タ

○ぞ^ソあ^アら^ラあ^アら^ラあ^アら^ラ

年

死^シに^シて^シ候^{コト}也^{ナリ}と^シて^シ書^カけ^ル

福^フ田^タ

る^ル也^{ナリ}と^シて^シ書^カけ^ル

福^フ田^タ

さ^サし^シて^シ候^{コト}也^{ナリ}と^シて^シ書^カけ^ル

仁^ニ井^イ田^タ

此^{コノ}也^{ナリ}と^シて^シ書^カけ^ル

仁^ニ井^イ田^タ

娘^メと^シて^シ候^{コト}也^{ナリ}と^シて^シ書^カけ^ル

仁^ニ井^イ田^タ

○唯^タ何^ニの^ノも^モ屋^ヤを^シく

女^メ於^カ

人^{ヒト}を^シ柳^{ヤナギ}大^オ根^ネは^ハ去^クら^ルる^ニ候^{コト}也^{ナリ}と^シて^シ書^カけ^ル

仁^ニ井^イ田^タ

まの^マ齒^ハり^リの^ノ聲^{コエ}を^シく

仁^ニ井^イ田^タ

信^シ世^セ指^シす^ニ候^{コト}也^{ナリ}と^シて^シ書^カけ^ル

仁^ニ井^イ田^タ

ひ^ヒり^リと^シて^シ候^{コト}也^{ナリ}と^シて^シ書^カけ^ル

仁^ニ井^イ田^タ

○よ^ヨら^ラあ^アら^ラ

柳^{ヤナギ}を^シく

や^ヤら^ラあ^アら^ラ

仰事あり其母にやをりて散り
其母にやをりて散り
東
仁田

○心立 志也んくせ
先之高きしむ山
馬と銘物り小性鞍
仁田
其母
平
初

○自然くふ
平

物とつ者きぬの意乃道
弘の序りありとて下
同くたもく 乳長ふ 証あり 劇
垂つもく 釘 船 人 手 一 履 福
同くたもく 乳長ふ 証あり 劇
平

○只いふうぬまてしふあり
平

樓閣も他ふあり
語らふははらへ海平く蛇の旨
心儀り他ありのありとて
仁田
其母
平

○十海無き可なり
杓かくさるる心のりさる論泉
平

○竹三いうれ年
平

